

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：澤村]
TEL：0853-22-6772
FAX：0853-24-3342

平成19年度 病害虫発生予察情報 特殊報第2号

平成19年12月20日
島根県

- 1 病害虫名 : ミナミアオカメムシ *Nezara viridula* L.
2 発生物種 : ダイズ
3 発生確認場所 : 雲南市 (ダイズ、インゲン栽培圃場)
4 発生確認の経緯

- 1) 平成19年10月6日に九州大学名誉教授湯川淳一博士らが島根県浜田市、江津市、大田市においてミナミアオカメムシの調査を行ったところすべての圃場でミナミアオカメムシが確認されたとの連絡を受け、同年10月10日に島根県東部 (松江市、出雲市、雲南市及び斐川町) のダイズ、インゲン圃場において幼虫を採集した。成虫まで飼育したものを湯川博士に同定を依頼したところ、雲南市の個体群でミナミアオカメムシが確認された。
- 2) 本種は、本州、四国、九州、南西諸島、小笠原諸島、台湾、中国、東南アジア等に広く分布する。近年では平成14年に福岡県、17年に大分県、18年には静岡県で発生が確認され、温暖化によって分布域を拡大していると考えられる。

5 形態及び生態

成虫は、体長 12.0 ~ 16.0mm で、アオクサカメムシによく似ているが、体がやや縦長に見えること、触角第3~5節の前半部が褐色 (アオクサカメムシは黒色)、半翅鞘革質部の下の腹背部が帯緑色 (アオクサカメムシは黒色を帯びる) であることなどで識別できる (図1)。

幼虫は、1~3 齢幼虫は体色の違いによりアオクサカメムシと見分けることができるが、4~5 齢幼虫は見分けがつかない。

6 被害の特徴

ダイズの本県での被害状況は不明であるが、他県では莢内の子実から吸汁するため、莢が落ちるか肥大せず緑色のまま収穫期まで残る。また、イネでも発生が確認されており、モミを吸汁して斑点米を産出する。他の斑点米カメムシに比べ体が大きく吸汁量が多いため、少数でも被害が大きくなる。

7 寄主植物

広食性で32科145種の植物を吸汁することが知られている。

8 防除対策

- 1) 発生を確認したら、各作物カメムシ類登録の薬剤を使用基準を確認した上で散布する。
- 2) 侵入後まだ日が浅く、発生地が限られていると考えられるため、本県での農作物への加害実態については不明であり、今後調査を行う予定である。



図1 ミナミアオカメムシ成虫
写真提供：福岡県病害虫防除所